

MRテキスト2018

疾病と治療

基礎

正誤表

(2022年6月)

頁	該当箇所	誤	正
52	右の上から5～10行目	異物の処理にはマクロファージや肺サーファクタント（表面活性物質）が、感染に対してはIgGを主体とする免疫機構が働く。マクロファージは好中球とともに異物を貪食する。肺サーファクタントは、肺胞の表面張力を弱める物質で、肺胞の表面全体をおおうことで肺胞の伸展を補助する。	肺胞における異物処理には食細胞であるマクロファージや好中球が働く。その貪食は肺サーファクタントによって促進される。肺サーファクタントは、肺胞の全表面に拡がって肺胞の虚脱を防ぐ表面活性物質として働き、Ⅱ型肺胞上皮細胞で産生される生理活性物質で、そのタンパク質成分（SP-AやSP-D）が侵入細菌やウイルスなどに結合し、補体活性化を惹起することでマクロファージや好中球の貪食を亢進させる。また、マクロファージに対する高い親和性により、マクロファージの遊走やフリーラジカル産生を促す。このように、肺サーファクタントは肺胞の自然免疫において大きな役割を担っている。
85	右の上から4行目	血圧上昇に働く。	血圧上昇に働く（図7-10）。
89	左の上から6～7行目	膨大部の内側部は峽部と呼ばれ、内腔が狭いことから異所性妊娠の好発部位とされる。	内腔が狭いことから、膨大部の内側部は峽部と呼ばれている。
160	左の4行目	じゃくじょう（ルビ）	じゅくじょう（ルビ）